

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 |      |  |   |  |            |
|----------|------|--|---|--|------------|
| 優先順位     | 項目番号 | 現状における問題点、課題   | 目標  | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容   | 目標達成に要する期間 |
| 1        | 6    | 職員が少ない時や、入居者様の不穏状態が強い時や、ふとした時に玄関や玄関以外に自室や他室窓より出て行かれる事があり、転倒の危険性もある為本人の安全を考え、家族同意のもと不穏時等に一部施錠をして対応をしている。                              | 利用者様の不穏時は安全面に考慮し、見守りや付添いを行ったり、本人の精神的安定を図る為に気分転換を行う等して施錠をできるだけしない。又、施錠を行う際はその時の本人の状態や対応方法についてを記録に残すようにする。  | 本人の不穏が強い時は、近くで見守りを行い、一緒に話しをしたり、外へ出られる時は付添ったり、散歩に出たり、ドライブへ行く等して本人の気分転換を図ると共に精神的安定を図る。又、本人の安全面を考慮して、その時々状況に応じた対応をする。   | 12ヶ月       |
| 2        | 48   | 利用者様の介護度の違いにより、以前は全員で行っていたカラオケ大会、習字、塗り絵、貼り絵、計算問題等のレクリエーションへの全員参加ができず、一部の人の参加のみになってきている。  | 利用者様全員が理解して参加できるようなレクリエーションや、個人個人の介護度に応じて参加できるようなレクリエーションを、職員で検討し話し合いを随時行う。それぞれのレベルに対応したレクリエーションを行う事で、認知症の進行防止ができると共に、利用者様に自分がしたいことを決めてもらう事で自己決定ができる。 | 以前より行っているレクリエーションを見直し、できない人は職員と一緒にいき、一緒に時間を皆さんと共有できるよう、介護度に応じたレクリエーションをそれぞれに合わせていき、利用者様全員が楽しんで参加でき、利用者様同士でコミュニケーションがよりよく図れるように工夫する。                            | 12ヶ月       |
| 3        | 49   | 利用者様の体力の低下がみられ、日中も臥床時間が増えている。又、利用者様それぞれに下肢筋力の低下も出てこられ、長距離の歩行ができていた方も歩行が困難になってきた。又以前より全員で参加していた遠出の外出も減り、利用者様が楽しみにされていた外出の機会も徐々に減ってきた。 | ホーム内において毎日歩行運動や体操、立位運動、上肢・下肢運動を行う事で下肢筋力の維持ができ、短時間の昼寝を取り入れる事で体力回復や体力の維持を図る。天気の良い日は庭先を散歩したり日光浴を行ったり、ドライブへ出かけたりする事で気分転換を図る。                              | ホーム内において歩行運動を毎日行い、それぞれの利用者様の歩行状態を観察し、その日の体調に応じて実施する。歩行が難しい人は立位運動等、個人個人に合わせた運動を行う。天気の良い日は庭先を散歩したり、日光浴をしたり、近所へ散歩へ行き徐々に外に出る回数を増やしたり、ドライブに行き季節に応じた景色や景観を見て気分転換を図る。 | 12ヶ月       |
| 4        |      |  |   |  | ヶ月         |
| 5        |      |  |   |  | ヶ月         |

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。